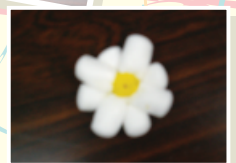


あけのギャラリー

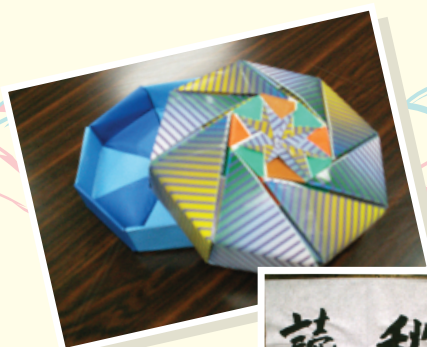
当病棟では在宅で必要な日常生活動作の訓練だけでなく、患者様同士が交流できる部屋を設け、訓練や趣味で作った作品を皆で鑑賞したり、展示したりしています。今月は、患者様が入院される前に趣味で行っていた折り紙や立体のパイナップル、箱、ビーズ工芸などの作り方を職員に教えて下さったり、一緒になって楽しく作業を行ないました。新しい患者様が入院される度に作品が増えてくるので、二病棟はとてにぎやかです。次はどんな作品ができあがるか、今から楽しみです。



ダンボール細工(恐竜)
今にも走り出しそう!!



ブローチ(花)
合う洋服を探さなくちゃ!



紙細工(箱)
箱というか飾り物のようです。



書
う〜ん心がおちつきます。



紙細工(パイナップル)
なんともおいしそうな…



折り紙(かぶと)
久しぶりに子ども時代を思い出しました。

住宅改修 & 福祉用具あれこれ

モジュール(調整型)車いす

アクトモア レボ



小さな工夫で大きな快適。体にぴったりフィットするよう、座面やひじ掛けなどにさまざまな調整機能を備えています。

調整できるのは①座面シートの奥行、②車軸の位置/前輪高さ、③アームサポート高さ、④背張り調整/背角度調整など、体格に合わせて、動きやすい位置にセットできます。

- 座幅37.5cm ¥175,600円 ●座幅40cm ¥175,600円(非課税)
- レンタル価格: ¥8,000(介護保険適用 ¥800)

情報提供(株) ハートウェル



医療法人社団 唱和会

明野中央病院

日本医療機能評価機構 認定病院

診療科目 内科・外科・消化器科・肛門科・リウマチ科・整形外科・形成外科
リハビリテーション科

病床数 75床 [2F/一般病棟45床(亜急性期病床10床含む)
3F/回復期リハビリテーション病棟30床]

発行日 2008年1月

発行 明野中央病院

回復期リハビリテーション病棟運営委員会

〒870-0161 大分市明野東2丁目7番33号

TEL 097-558-3211(代表) FAX097-558-3709

URL <http://www.coara.or.jp/~akenohp/>

E-mail akenohp@fat.coara.or.jp

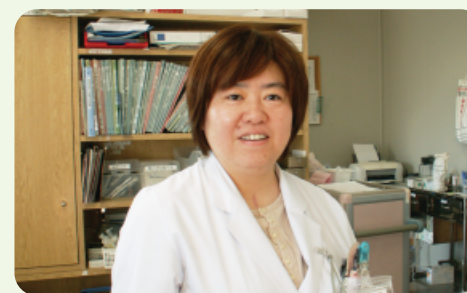
◎回復期リハビリテーション病棟に関するご相談、お問い合わせは地域医療・看護支援センター 佐藤まで◎

あけのスケッチ

AKENO vol.2 SKETCH

「温かいチーム医療を目指して」

～回復期リハビリテーション病棟専従医 宮崎真理～



回復期リハビリテーション病棟を開設してもうすぐ1年になります。一般病棟と回復期リハビリテーション病棟の一番の違いは、患者様の意欲や努力が治療効果に占める割合が大きいところだと思います。一般病棟は急性期の患者様が大半を占めるため、どうしても手術や投薬、点滴などの医療行為が主体となりますが、回復期リハビリテーション病棟では病状も安定し、急性期に生じた筋力の低下や麻痺などの後遺症との戦いとなります。そのために、患者様自身のもつ力やリハビリテーションへの意欲が、治療の効果に与える影響は大きなものがあります。私たちは患者様一人ひとりにあったリハビリテーションプランを立て、少しでも効率良く元気になっていただくようにサポートしていくのが仕事です。急性期病棟と違い、入院期間を若干長くとり、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士にソーシャルワーカー、看護師そして医師がひとつのチームになって患者様のリハビリテーションに努めます。朝起きてから夜休むまで一日中がリハビリテーションです。医師としての役割も少し変化しており、患者様がリハビリテーションにがんばるように体調を整え、障害となる症状を少しでも緩和するように働きかけるといった仕事も重要になってきます。チーム全員で、患者様一人ひとりのカンファレンスを行い、リハビリテーションの到達目標や自宅への退院、ひいては職場復帰をめざしています。まだ取りかかったばかりですので十分行き届かない部分もあるとは思いますが、少しでも患者様の助けとなるような病棟を目指してチーム全員でがんばりたいと思います。

～クリスマス会を行いました!～

今年も12月8日(土)に、リハビリテーションセンターをイベント会場として、ボランティア会の皆様による毎年恒例のクリスマス会を行いました。フラダンスに始まり、歌舞、民謡、ひよっこおどり、最後は会場全員でジングルベル(振り付き)の合唱を行い、今年も大盛況の内に終わることができました。患者様に笑顔をプレゼントしたいという、ボランティア会の皆様の暖かい気持ちが伝わってきたクリスマス会でした。来年もよろしくお願ひいたします!



子どもたちの「ひよっこ」も登場

退院後の生活に向かって

回復期リハビリテーションには、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3部門があり、セラピスト、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどのスタッフが一体となってリハビリテーションの実施計画に基づいたチームアプローチを実践し、1日でも早い家庭復帰、社会復帰を目指しています。

ご自宅での生活を前提に、従来の訓練室での機能回復訓練だけでなく、質の高い生活が送れるように、屋外歩行訓練や調理訓練、入浴動作訓練などの実用的なリハビリテーションを実施しています。また、訓練で獲得した動作が日常生活に活かされるよう、ご自宅での動作・生活指導、住宅改修の提案など退院前のご自宅への訪問も積極的に行なっています。

退院後も、「訪問看護ステーション・ふくろう」の訪問リハビリテーションにより、在宅生活を支援する体制を整えています。

調理訓練 実際におかずやお味噌汁を作ります。



玉ねぎをきざんでいます



お味噌を入れて…



完成!

入浴訓練 ご自宅の浴室や浴槽に合わせた、安全な入浴動作を練習します。



入る時はこっちの足から…



足の曲がりに気を付けて



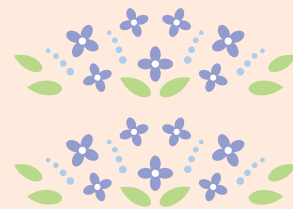
歩行訓練 砂利道や路面の凹凸に慣れるため、実際に屋外を歩いて訓練します。



平坦な場所ばかりではないので…



一歩一歩確認しながら歩きます



患者様の声



Mさん（男性、87才）は脳梗塞で倒れ、その後遺症として体の右側に麻痺が残りました。入院の時点では、スプーンが持てるまでに回復していたので食事をするのは自分でできましたが、その他の日常生活動作はすべて介助が必要でした。立ち上がる際にはふらつきがあり、特に歩行に関しては、右足の踏み出しも上手にできない状態だったため、慎重かつ十分な訓練を行なう必要がありました。そして訓練開始からおよそ2カ月後、T字杖を使った歩行が安定し、身の回りのこともほぼ自分でできるまでに回復しました。病棟内

ではまだ転倒の危険性が高いため、車イスを併用していますが、これからは実際の生活に向けて、病棟内でも杖歩行で生活できるよう訓練が始まります。「自分のことだからがんばるよ。人は努力をしないとネ」と力強い言葉が聞かれました。1日も早い退院に向けて今日もがんばってリハビリに取り組んでいます。

スタッフ紹介



医療ソーシャルワーカー
佐藤 善紀

病気や怪我をきっかけに発生した生活不安や介護の問題に対して、福祉サービスや介護保険などの制度を活用しながら、ご本人、ご家族が望む生活を継続できるようお手伝いしています。

病院からの退院は本来嬉しいことですが、同時にこれまでの生活に戻れるかどうか、自宅で安全に介護ができるかどうか、そういった不安とも背中合わせであると思います。そんな不安を少しでも解消できるよう、入院時からご本人、ご家族と話し合いを繰り返し、あらかじめ解決すべき生活課題を見つけ、それに対するサービスの情報提供や提案、手配などを行なっています。

回復期リハビリテーション病棟では、身体機能の回復を目指すだけでなく、患者様の生活全体をRe-habilitation（再獲得）することを目標にしています。生活問題を担当する専門職として、まずは患者様、ご家族とよく話をすることを心がけ、安心感をもってリハビリに専念できるよう、側面から入院生活をご支援していきたいと考えています。

趣味は「野鳥の木彫り」と地味な性格ですが（笑）、コツコツと確実な仕事を心がけています。

患者様、ご家族の立場に立つ「代弁者」としての仕事にやりがいを感じています。ぜひお気軽にご相談下さい。